

第82回学習会議事録

1. 日時：10月11日（木）14：00～17：00
2. 場所：JAビル7F会議室
3. テーマ：「有機農業推進への取り組みと課題」
4. 講師：
 - (1) 農水省生産局 農産振興課環境保全型農業対策室 中島潔 氏
 - (2) 下里農場、全国有機農業団体協議会 代表 金子美登 氏
 - (3) (株)ジーピーエス 取締役事業本部長 高橋宏通 氏
5. 参加者：75名
フォーラム会員、地方フォーラム会員、一般参加者
6. 概要：
 - (1) 中島氏より1時間程度、別紙資料「有機農業の推進について」にもとづき、有機農業の説明、生産現状、推進に関するこれまでの取り組み、推進法の概要等について報告があった。続いて金子氏より40分程度、別紙資料「全有協および下里農場の今までとこれから」にもとづき、埼玉県小川町の霜里農場での有機農業への取り組みと全有協の活動経緯の説明があった。その後(株)ジーピーエスの高橋氏より40分程度、別紙資料「パルシステムの有機農業への取り組みについて」にもとづき、有機農業推進への考え、産直事業等の報告があった。
 - (2) 会場参加者からは、有機JASと推進法の関係、有機農業を広げるにはもっと国の広報対策が必要である、GAPやポジティブリストとの関連等についての意見や質問があった。
7. 主な質疑
 - ①Q：説明資料に、有機JAS農産物と推進法の関係が出されているが、今回の推進法にもとづく普及推進の前に、現在の普及状況を把握し評価する必要があるのでは。
A：指摘通りである。有機JASの調査を実施して評価していきたい。全国的網羅のしっかりした調査は出来ないかもしれないが、ネットワークやサンプル調査、農業センサス等も活用していく予定である。
 - ②Q：金子氏説明の、消費者へのお礼まわりは現在も実施しているのか。
A：1997年から10件の消費者と開始した。消費者の代替わり等あるが、現在も続いている。一言でいえば「甘えのない親戚の関係」である。
 - ③Q：金子氏は有機JASを取得しているのか。

A：取得していない。消費者との交流により具体的に理解されているし問題はない。

実態的には、取得しにくい内容の問題もある。

小川町の有機農業生産者26名のうち1名は取得していたが、マルチの問題でやめ、現在は一人も取得していない。食品メーカーへ納入の場合証明問題があるので、行政の協力を得て県の特裁制度で了解してもらっている。

④Q：硝酸態窒素削減対策はどうしているのか。

A：(金子) 15年前に、たい肥を動物性から植物性に変更し土づくりが非常にうまくいった。毎年関係機関に土壌検査を依頼しているが大丈夫であり、問題がないデータとなっている。

⑤Q：有機農産物の流通量は本日の資料では0.16%と出ているが、農政ジャーナリストの会での勉強会では1%の説明があった。いろんな数値があるようだが実行ベースでどの位か。

A：公表での数値は0.16%のデータしかない。いろんな立場やさまざまな経験や勘等で違った数値が出ている場合があるのではと思っている。

⑥Q：GAPやポジティブリストのルールが近日中にできると聞いている。すでにモニタリングが始まっているようだが。

A：ルール化やモニタリングについては知らない。環境に配慮した農業を進めるための方策として、関係者が基礎GAPの考えを生産者に推進することはあると思う。

⑧Q：一部学者が有機農業は怖いとか、土の中には非常に危険なものがあるといった発言をリスクミの場で発言していることがあるが、消費者には正しい情報を提供願いたい。

A：(金子) 長い経験を踏まえた結果、有機農業にきちんと取り組めば危険はないと考える。

(中島) 有機に限らず、どんな農業も安全・安心をめざして取り組んでいることをきちんと伝えていきたい。検査合格した者は安全である。有機農業への取り組みは環境への配慮型農業であるが、取り組む生産者には、リスクもあり誰でもできるとは思っていない。やりたい人が取り組み、うまくいくように行政支援はしていきたい、

以上